

国宝5城 ①犬山城、②彦根城、③姫路城、④松本城、⑤松江城

犬山城(愛知県) 木曾川沿いの平山城で中国長江畔の「白帝城」になぞられる。

1537年 織田信長の叔父信康により築城

1617年 成瀬正成(幕府の目付家老3万5千石)が改築、

現存する最古の天守で「望楼型天守」、天守は3重4階で18m、2004年まで個人所有の城でその後公益財団犬山城白帝文庫歴史文化館、1階 納戸の間、2階 武具の間、3階 破風の間、4階 高欄の間、石垣は5mの野面積(自然石をほとんど加工しない)



彦根城(滋賀県) 3重天守で井伊家の居城、平山城で京極氏の大津城天守を移築

1600年関が原の戦いで勝利した東軍徳川家康が、敗訴した西軍石田三成の近江18万石を取上げ、居城であった佐和山城を取壊して移築した。井伊直政に禄高を与え、その子井伊継が1622年に完成させた。隠し部屋 2階東西、3階南北の4箇所 4-5人が入れるスペース 鉄砲狭間 石垣は牛蒡積、落し積で強固な石垣、琵琶湖周辺には多くの城があった(湖上交通が便利)がある。キャラクターは「ひこにゃん」(白猫 井伊家の招猫で赤胃)。





姫路城(白鷺城)(兵庫県) 新柱2本あるが折れて接木をしている。

防御的要素の強い城で平時は倉庫の役割。5重で6階地下1階、石垣は14.8mの野面積(官兵衛が創った石垣あり)、高さ20m、天守まで31.5m、白漆喰の壁で漆喰100tを使用(防水、接着剤の役割)し厚さ3-3.5cmで、耐火、耐水効果がある。平成21年から5年かけて改築し、26-28億円の費用(国65%、他に市と県が分担)を要した。1580年豊臣秀吉が築城、1601年池田輝政が大改築し本多忠政が整備をした。





松本城(長野県) 5層6階で壁は黒くカラス城

1550年 武田信玄の兵庫基地、1582年 小笠原氏入城し三の丸、侍町と城下町の整備、
1590年 豊臣領となる石川数正、康長親子の大改修、1633年 松平直政(家康の孫)が天守の改築降雪、寒冷な信州気候風土から廻縁の駆逐防止のため、内部に取り込み、居住ではなく倉庫的役割



松江城(島根県) 平成 27 年(2015 年)7 月に国宝

慶長 5 (1600)年～寛永 10(1633)年に堀尾吉晴は秀吉、家康に仕え、孫の忠晴を助け松江城と城下町を建設。その後、京極氏が跡を継ぎ、その後は家康の孫である松平直政が統治した。外観は 4 重、内部構造は 5 階、地下 1 階の構造で、入り口に付櫓を設けた複合式望楼型に分類される。外壁の多くは黒色の下見板張りで随所に防衛装置を配している。また、石垣も立派で防御が優れている名城。



以上